

## 令和7年度 名古屋市立大学 学校推薦型選抜 A

(人文社会学部 現代社会学科)

## 小 論 文

## 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は2ページあります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入してください。  
解答用紙は2枚です。
4. この冊子は試験終了後、持ち帰ってください。

許可なしに転載、複製  
することを禁じます。

以下の資料を読み、下記の問題に答えなさい。

65歳以上の高齢で一人暮らしの女性の4割が、相対的貧困の状態にある。高齢単身の男性に比べ、14ポイント高い。現役世代のひとり親世帯と同じ深刻な水準だが、これまで光が当たってこなかった。生活困窮者の支援に取り組む認定NPO法人「自立生活サポートセンター・もやい」の理事長で、内閣官房「孤独・孤立対策担当室」の政策参与も務める大西連さん(36)に、現状と背景、対策について聞いた。

### ■『自己責任』ではなく社会構造の問題」

「新宿ごはんプラス」という団体をつくり、東京都庁の下で、生活に困っている人に食料品を配る活動を続けています。コロナ前は100人ほどでしたが、現在は700人近くが毎週土曜の午後に長い列をつくれます。

以前は中高年の男性がほとんどでしたが、今は100～150人が女性で、中高年以上の方が多く印象です。路上で行う支援活動で多くの女性に出会うのは珍しく、私自身もあまり経験したことなかった事態です。

高齢期に一人暮らしの女性の生活が成り立ちにくいのは自明のことです。高齢者は働けないか、働きたくても労働市場から排除されやすいので、年金が生活を支える大きな資金源となります。ところが女性の場合、現役時代に非正規雇用で低賃金だったり、育児や介護で離職していたりして、低年金や無年金の人が多くからです。

にもかかわらず、この問題が注目されてこなかったのはなぜか。「男性中心社会」だからでしょうね。差別や偏見の構造によって、光が当たってこなかった。お題目のように「男女平等」や「女性活躍」が唱えられても、社会システムの中には定着していない。

リーマン・ショック後の2008年末から年明けにかけて、東京の日比谷公園に設けられた「年越し派遣村」では、支援を受けた約500人のうち女性は5人ほどだったと聞いています。当時は、働き盛りの男性が「派遣切り」にあって失業し、生活に困窮する様子が社会にショックを与えました。一方で女性たちはずっと、非正規や派遣など不安定な就労環境に置かれてきたのに、当たり前のことのように受け止められてきた。

社会の価値観は変化しつつありますが、年代にもよりますし、社会システムをつくっているのは今も中高年男性が中心です。そういう人たちの多くは、高齢単身女性の貧困のような問題が見えていないように思います。

政治の責任で取り組むべき課題ですが、政府の審議会などを見ていると、若年層に対する支援の話が多いような気がします。元気になって、仕事を始めて、良いパートナーとめぐり合ったら、前向きな変化が期待できるからでしょうか。

高齢者の場合、どうしても生活を保障する話になります。高齢者は人口が多いため、支援しようと思えば数千億～数兆円以上の財源が必要になります。だから、みんな見て見ぬふりをしてきた、手を突っ込む覚悟がなかった、ということもあるかもしれません。

人口減少が進む中、限られた財源を未来に投入しようという政策誘導がなされ、多くの人がそれを受け入れているように思えます。社会として、みんなの権利を守らなければならないのに、放棄している。しかし、高齢単身女性の貧困は決して「自己責任」ではなく、社会の構造的な問題が連綿と続いてきた結果です。社会がツケを払い、その尊厳を守るべき時がきていると思います。

(聞き手・二階堂友紀、島崎周)

朝日新聞朝刊 2024年3月26日(「(Think Gender) 高齢単身女性の貧困、目を向けて」)より一部改変

【問 1】高齢女性の貧困が拡大した原因は何か、資料で指摘されていることと、指摘されていないこととを含めて 300 字以内で述べなさい。

【問 2】資料で指摘されている「社会の構造的な問題」に対して、「高齢女性の貧困」かあるいは他の問題について、あなたはどのように考えどのように取り組むべきと考えるか 800 字以内で述べなさい。